

日 時	2023年3月15 14:00～16:00	
場 所	東京服飾専門学校(B1,B2) 豊島区巣鴨1-19-7	
出 席 者	<p>一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会 事務局長 境泰 志様(都合により欠席)          一般社団法人 日本モデルエージェンシー協会 岩田 佳典様(都合により欠席)          有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田 ねりこ様          株式会社クレヨン営業本部人事部マネージャー 吉田 愛里(都合により欠席)          ソーイングアサヒ株式会社 高橋 英一郎様</p> <p>東京服飾専門学校          山下 節子(校長) 古賀 由紀夫 鷲 典子 上野 菜月</p>	
欠 席 者	3名	
概 要	<p>1.次年度における各科カリキュラム、シラバスの配布と編成経緯、変更点、留意点について          2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整</p>	
内 容	<p>①挨拶          ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へのお願い。          ・第10回 教育編成委員会の目的と議事項目</p> <p>②職業実践講座授業の実施途中結果          ・前回指摘のあったプレゼン能力向上においては、パワーポイント使用など使用も含め強化を行い緊張しながらも声をだして話すことが出来ていた。          今年度の全員がプレゼンを行う事は成果があった。          ・自分のイメージを伝える手段としてのデザイン画(平絵)の授業時間数も増やし、スキルアップを今後も行っていく。          ・工業生産技術の習得に向け、工業用ミシンの授業を増やしたり、穴かがりミシンの増設を行った。          仕様書、原価計算、下代、上代の生産性に関する知識なども折り込む          ・テーマが広すぎるため、絞り込みを行い授業の内容だったり、集中度を高める。          ・授業の間にもチェックを行う事により、理解度がより深まる。</p> <p>③今後の展望や問題点、課題</p> <p>[有限会社 ビーシーコスチューム太田様]          ・機材の導入を行い全員工業ミシンを使う事は出来るようになったが、技術の習得においては反復する事により習熟度をあげていく必要がある。          ・技術面において縫製力がまだ足りていないので、色々製作物を多く作る事が大事である。          ・作り方、技術ではない部分、身に着けるものに興味を持つ事が大事          生地の手触り心地など(五感で気付けるもの)外部のものを見ること。          興味があれば、縫い代の倒す方向なども着やすさなどを想像して考えられるようになる。          ・就職に関しては、現在人手不足で、なり手も少なく育たない状況にあり受け皿は少ないが、目指してくれる人が増えると業界は助かる。          ・プレゼンテーション能力(自己アピール)が必要である。面接の中での判断基準となる対等になれるまでの忍耐力が必要である。</p>	

	<p>:実務経験としての知識、技術の習得がこれから業界に出て行った場合に重要になってくるので、実際の研修などを通して就職に繋げてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のコロナ禍により、レンタル部門は壊滅的な打撃を受けたが、プロバレエ団は公演を行ったので製作の方の仕事は続ける事が出来た。</li> <li>・バレエ公演のゲネプロを見せて頂く機会を設けて頂きとても良かった。</li> </ul> <p>[ソーイングアサヒ株式会社 高橋英一郎様]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の縫製指導について理解力の面では個人差はあるが、最初は練習そこから少しずつレベルを上げてゆく</li> <li>・前の工場でのやり方を言っても変えてくれない人は困る、工場によつての縫製方法が違う部分を素直に受け入れてもらいたい、柔軟性が必要。</li> </ul> <p>[学校側]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生達にとってよりわかりやすく理解を深めるため、インタラクティブボードを使用して学生には、一人一台のタブレットを貸し出す事により、手で確認、復習、自宅においても視聴出来る。</li> <li>・授業のオンライン活用、プレゼンツールの利用</li> <li>・1年次は基礎部分を習得、2年次には各学科事でインターンシップ研修等を通して実践型を行ない、企業連携の中で業界の人材ニーズを把握しながら人材育成を行なっていく。</li> <li>・企業との連携はこれからも、学生達が実社会に出て行き実務を行なっていくにあたり、とても重要でより深めていく必要がある。・技術面においては反復する事により習熟度を上げていく事が重要である。</li> <li>・就活にあたり、プレゼンテーション能力の強化は不可欠になってくるため反復練習とポートフォリオなどの準備が必要である。（*Macの授業に取り入れる）</li> <li>・今後も出来る限り生の公演、観劇、展覧会などの実体験の機会を増やしていければと思います。</li> <li>・デザイン画の授業と服飾造形の授業との連携を図り作品の向上を図って行きたい。</li> </ul> <p>④総括</p> <p>引き続き、全学科において企業と連携したインターンシップ研修を実施。      企業理解、職種理解を深め、学生一人一人が自主的、主体的に学修に取り組み業界のプロとして活躍できる知識、技術、技量を身につけられるように育成をしていく。      これからの世の中の情勢を踏まえて、学校としてDXを推進、整備していく。      クラスルームなどの活用も行っていく。</p>
添付資料	教科内シラバス、職業実践講座関係資料
決定事項	
課題事項	
次回日程	2023.7
特記事項	

	作成者
	鷺